

国際パラリンピック委員会公認教材『I'mPOSSIBLE アイムポッシブル』日本版
中学生・高校生版第三弾を約 17,000 校へ無償配布に寄せて

I'mPOSSIBLE 日本版は 2017 年から配布が始まり、この度、全国 17,000 校の中学校・高等学校に配布された 2 ユニットの配布によって、東京大会に向けて製作した 14 ユニットすべての教材が完成しました。

JPC を代表して、制作にあたり財源・人材についての多大なるご支援をいただきました日本財団パラリンピックサポートセンター様をはじめ、制作に取り組みに来てきた I'mPOSSIBLE 日本版事務局のメンバー、ご協力いただきましたすべての関係者に心からお礼申し上げます。

I'mPOSSIBLE はパラリンピックの本質的な意義を表現した教材が多用されているため、生徒たちは I'mPOSSIBLE を通じた自主的な学びを通して、この「本質」についてより深い理解を進めてくれることでしょうか。私は常々「パラリンピックは人間の可能性の祭典」であると言っています。I'mPOSSIBLE には、このようなパラリンピックの本質的な意義を表現した教材が多用されていますので、生徒の自主的な学びを通じ、こういったパラリンピックの意義についてもより深い理解が進むことと期待しています。中学・高校時代といった多感な時期であるからこそ、パラリンピックを通じて多様性やインクルージョンを理解することにより様々な気づきを得られるものです。そして、社会をよりよくしていくためには、多様な意見からヒントを見つけ出し、共通認識を高めていくことが大切であるという重要な摂理を学ぶこともできるのです。

私はパラリンピックから多くを学び、育ててもらいましたので、その魅力や価値を、特に若い世代に伝えていきたいと思っておりました。パラリンピアンとして、学校教育でパラリンピックを学べる時代になったことは大変嬉しいですし、元教師としても、共生社会を実現するにはどうすればよいのか、生徒たちの考え方を変えるための最高の教材であると感じています。

I'mPOSSIBLE の授業では、子どもたちはパラリンピアンの鮮烈なストーリーに感嘆しつつ、勇気、強い意志、インスピレーション、公平といったパラリンピックの価値を自分の中に見出すでしょう。そして、パラリンピックの中に散りばめられた「できない」「をできる」に変える工夫を通して、共生社会を実現するために必要なことは何かを考えるきっかけとしてくれるに違いありません。是非多くの学校、先生方にも、この学習の機会を子どもたちのために設けていただきたいと心から願っています。そして、日本パラリンピック委員会としても、この教材の普及に全力で取り組んでいきたいと思えます。

現在、新型コロナウイルス感染症によるかつて経験したことがない困難の渦中にあり、学校現場もとても大変な状況にあると思います。しかし、パラリンピアンたちが様々な逆境と向き合い、努力や工夫によって道を切り開いてきている様子は、この状況を乗り越えるためのヒントになることでしょうか。I'mPOSSIBLE を通じ、共に未来に向かって、前進していきましょう。

2020 年 6 月 15 日

日本パラリンピック委員会 委員長 河合純一